

.....

[illegible]

.....

1

## 10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

|                        |                                                                                |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| ○当事者 A                 | 年齢[ 29 ]歳、 勤続年数[ 6 ]年、 現場経験年数[ 5 ] 年、 階級[ 消防士長 ]、<br>同様の活動 [ 頻繁 ]、 任務 [ 車長 ]   |
| ○当事者 B                 | 年齢[ 50 ]歳、 勤続年数[ 30 ]年、 現場経験年数[ 25 ]年、 階級[ 消防士長 ]、<br>同様の活動 [ 頻繁 ]、 任務 [ 機関員 ] |
| ○当事者 C                 | 年齢[ 29 ]歳、 勤続年数[ 7 ]年、 現場経験年数[ 6 ]年、 階級[ 消防士 ]、<br>同様の活動 [ 頻繁 ]、 任務 [ 隊員 ]     |
| その他<br>(当事者が 4 人以上の場合) |                                                                                |

### 1 1 . 事例発生の経過。

|       | 誰(何)が | なにをした                                          | その他・備考など              |
|-------|-------|------------------------------------------------|-----------------------|
| 経過 1  | B     | 現場直近（傾斜路の頂側）に救急車を停車                            |                       |
| 経過 2  | A、C   | 観察資器材等とともにストレッチャーを曳航、<br>傷病者宅前で傷病者と接触          |                       |
| 経過 3  | A、B、C | B が活動に合流した。傷病者をストレッチャーに<br>ベルト固定し、救急車にむけて移動を開始 |                       |
| 経過 4  | A、B、C | 移動開始直後から、ストレッチャーが雪の積も<br>る傾斜路を滑り始め、制御困難となる。    | 積雪は10cm弱程度、<br>傾斜角は不明 |
| 経過 5  | A、B、C | 隊員自身も足元が不安定であるため、ストレッ<br>チャーを十分に確保できず、滑り続ける。   | 隊員は黒短靴で活動             |
| 経過 6  | A     | 救急車（10m程度：坂上）までの移動を断念、<br>救急車を坂下に移動するよう指示する    |                       |
| 経過 7  | A、C   | 沿道の住居の門や柵につかまりつつストレッ<br>チャーを保持、坂下まで移動（30m程度）   |                       |
| 経過 8  | A、B、C | 坂下の救急車に到達、車内収容                                 |                       |
| 経過 9  |       |                                                |                       |
| 経過 10 |       |                                                |                       |

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？  
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

避難・退避がうまくいった。他隊(員)から適切な注意を受けた。

- ## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。 | いいえ |
| ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。         | いいえ |
| ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。              | いいえ |

b. 注意力が欠如していた

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| ・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。       | はい  |
| ・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。 | いいえ |
| ・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。             | いいえ |

c . 経験・知識が不足していた。

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。     | いいえ |
| ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 | はい  |
| ・活動に対する経験が不足していた。          | いいえ |

d . 心身の不調があった

|           |     |
|-----------|-----|
| ・体調が悪かった。 | いいえ |
| ・悩み事があった。 | いいえ |

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

|                     |     |
|---------------------|-----|
| ・装備・資機材自体に問題があった。   | いいえ |
| ・装備・資機材の使用方法が誤っていた。 | いいえ |
| ・装備・資機材の対処能力を超えていた。 | はい  |
| ・必要とする装備・資機材がなかった。  | いいえ |

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| ・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。       | いいえ |
| ・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。 | いいえ |

g . 行動しにくい環境だった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・狭隘な場所であった。      | いいえ |
| ・暑かった（寒かった）。     | はい  |
| ・野次馬が多かった。       | いいえ |
| ・現場周辺の地理に不案内だった。 | はい  |

h . 足場が悪かった。

|                  |     |
|------------------|-----|
| ・足元が躓いたり滑りやすかった。 | はい  |
| ・足元の強度が不足していた。   | いいえ |

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

|                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）           | いいえ |
| ・指示内容に誤り・偏りがあった。                    | はい  |
| ・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。） | いいえ |

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

|                |     |
|----------------|-----|
| ・隊員の連携が不十分だった。 | いいえ |
| ・隊員が不足していた。    | いいえ |

○ その他

l . その他の理由があった。

|     |
|-----|
| いいえ |
|-----|